

システマティックレビュー研究の手引き

2017/10/23

米本直裕

1. 研究疑問 (PICO, PECO) と研究仮説の作成と吟味

P: 患者、対象者

I/E: 介入 (治療、検査) 曝露

C: 対照となる介入 (治療、検査) 曝露

O: アウトカム指標

(T: アウトカムの時期)

(検討すべきこと)

レビューの意義、インパクトは?

すでに関連するレビューが存在しないか、内容がオーバーラップしないか
そもそも該当する研究が存在するのか

2. レビュー方法の検討、研究計画書の作成

- 1) レビュー対象の研究のタイプ: RCT だけか、それ以外も含むか
- 2) 文献データベースの選定
- 3) キーワードの選定と検索式の作成
- 4) 予備的な検索と文献吟味
- 5) 適格基準と除外基準、英語のみか、それ以外も含むか
- 6) 介入 (治療、検査) と対照の定義、主要アウトカムと副次アウトカムの設定
- 7) データ抽出項目の定義
- 8) 研究計画書の作成と研究登録 (PROSPERO)

<https://www.crd.york.ac.uk/PROSPERO/>

3. 文献検索

- 1) 予備的な文献検索と選別
- 2) 文献データベースの検索、ハンドサーチと検索文献リストの作成
- 3) 重複論文の除外
- 4) タイトルでの選別 (可能であればダブルチェック)
- 5) アブストラクトでの選別 (可能であればダブルチェック)
- 6) 文献の取り寄せ
- 7) 本文での選別 (可能であればダブルチェック)

8) 適格論文の決定

4. データ収集と結果の要約

1) 適格論文からのデータ項目の収集、表の作成

2) (RCT、介入研究であれば) チェックリストに基づく研究報告の質の評価

*RCT の場合： Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions を参照

(可能であればダブルチェック)

3) (量的な統合評価が可能であれば) メタアナリシス

4) 結果の解釈

5. 報告書、論文の作成

システマティックレビューの報告は PRISMA 声明 に従う必要がある。

<http://www.prisma-statement.org/>

<http://www.prisma-statement.org/Translations/Translations.aspx>